

# 活動紹介

千葉県森林インストラクター会

活動分野	森に親しむ懇談会（もりこん）139		
タイトル	樹木ウォッチングの楽しみ		
実施日時	平成28年9月15日（木）18：45～20：45		
実施場所	船橋市 中央公民館第2集会室		
受講者	16名	FIC会員	13名

## 活動の内容

講師は千葉県森林インストラクター会会長の栗田吉治さん。  
森林率が2%にも満たない市川市だがお住いの近くは街路樹、公園、緑地が意外と多く「樹木ウォッチングの楽しみ」には事欠かないそうで、豊富な写真、イラストを使ってPart I「木の芽のはなし」Part II「木の実いろいろ」の二部構成でお話しいただいた。

### (Part I)「木の芽のはなし」

一見動かないように見える樹木も、生き生きと動き生活している。冬芽、芽吹き、展葉、開花までまるで連続写真のような綿密な多くの写真を通して分かりやすく説明を受ける。また冬芽の芽鱗は防寒としての保護機能を強調する機会が多いが実際には乾燥対策としての防乾機能の役目の方が強いとのこと。

そんな樹木たちの一年を通しての動きは美しさとともにおどろきや感動すら与えてくれるとのこと、以下の項目についてオリジナルの木の芽のイラストを使い丁寧に説明を受ける

1,芽吹き 2,芽の形成(定芽・不定芽、頂芽優勢、潜伏芽、仮頂芽、頂生側芽) 3,冬芽(鱗芽・裸芽) 4, いろいろな芽(花芽・葉芽・混芽、主芽・副芽、葉柄内芽、土用芽)

### (Part II)「木の実いろいろ」

花を構成するめしべやおしべなどの花器官はシュートの葉からできたものとされること。めしべをつくる単位として「心皮」と呼ぶ葉があり、一枚あるいは何枚か合わさって一個の子房を作る。子房やその成長した果皮ははいわば胚珠(種子)を納める入れ物で、保護する器と考えられる。果実の観察は、心皮と果実の関係を理解するうえで有効である。

1,さまざまな果実(真果と偽果、単果・集合果・複合果、裂開果、閉果) 2,裸子植物の果実(球果、イチョウ・イヌマキ、イチイなど裸子植物の偽果) 3,果実の役割(種子の保護、種子散布、発芽の調整) 4,二色効果(鳥散布の場合赤と黒を同時に目立たせることにより鳥を引き付ける)

今回は何も遠くに行かなくても身近な街路樹や公園などでそんな樹木たちの1年をウォッチングすることができることに改めて気づかされた貴重な内容となった。



トチノキの冬芽、芽吹き、展葉まで



ハナミズキは鳥散布、ヤマボウシは動物散布(サルなど)に進化したと考えられる